

平成28年度第1回 菊池市の未来を考える懇談会会議録

日時：平成28年7月11日(月)14:00～

場所：七城公民館 講堂

出席者：山内理至委員、村上正八委員、松岡義清委員、三牧隆一委員、構原茂樹委員
高野和義委員、田代貴美子委員、上田加代子委員、水上博司委員
稲葉公博委員、森代美子委員、佐美三信雄委員、山下和貴委員、工藤忠委員
上野眞也委員

欠席者：高宗政禎委員、小佐井美保委員、坂本富士夫委員、安武孝浩委員、
右田美喜江委員、泉田寛靖委員

傍聴者：熊本日日新聞社

事務局：江頭実市長

坂口啓介政策企画部長

楳田邦昭七城総合支所長、山本幸一郎泗水総合支所長

【企画振興課】泉大助課長、上野重智係長、富岡洋三参事、中嶋大樹参事
園田賢太郎主事

【防災交通課】岩根卓士課長、米村雅司参事

【庁舎整備課】今林茂文主事

【健康推進課】松岡賢憲主事

【生涯学習課】高見淳参事

- 次第：1. 開 会
2. 会長あいさつ
3. 市長あいさつ
4. 報 告
 (1) 菊池市の「教育」について
5. 議 題
 (1) 「熊本地震から考えるこれからのまちづくり」
6. そ の 他
 (1) 行政サービス（総合支所）の在り方について

要約記録

事務局	市の情報公開条例に基づきまして、原則会議は公表するとなっております。今回は報道機関より傍聴の希望がっております。傍聴の際、皆様が発言されている様子について、写真撮影やその内容をメモされることがあるかと思えます。直接の聞き取り取材は、懇談会の終了後をお願いしております。会議録はこれまでどおり公表することとし、要点筆記とさせていただきます。発言者の氏名につきましては、非公表とし会議録を作成いたしまして、会長、副会長の確認が終わり次第、市のホームページに掲載することによろしいか、お諮りいただきたいと思えます。
会長	会議を公開するかどうか、それから会議録を公開するかどうかということですが、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。
各委員	はい。

(報告)

(1) 菊池市の「教育」について (企画振興課/園田賢太郎主事説明)

資料①…平成27年度菊池市の未来を考える懇談会議題「菊池市の教育」について

報告

(概要)

昨年度、議題として取り上げた「菊池市の教育」について、その後の取り組み等を説明しました。具体的には、『癒しの里きくち創生総合戦略』(平成28年3月策定)における主な取り組みや、重要業績評価指標の紹介、第2次菊池市総合計画に係る実施計画書(平成28年度～30年度)における教育分野の事業について紹介を行いました。また、平成28年3月卒業の本市中学生の進路先として、市内3高校の進学者数のデータを報告しました。

会長	昨年度、2回にわたり様々な観点からご議論いただきました。さらに、市役所の方でもその後議論され、政策化というものが検討されております。教育の問題は地域全体の教育力に関わりますので、政策に入れて、すぐ変わるわけではないわけですが、皆さんと一緒に引き続き問題意識を共有したいと思います。今の説明について何かご質問やコメントがありましたらお受けしたいと思います。
委員	市内3高校への進学者が151名で全体の34%ということでびっくりしました。440名の卒業生のうち、300名程度、60%近くが市外に行っているということですね。市外の高校へ行く人は近くの天津高校や鹿本高校がほとんどですか。それとも、熊本市内の高校に行く人も多いです

	か。
事務局	手元にそこまでの情報はありませんが、確かに市内の3校への進学率は約30%ですので、それ以外の高校へ60%以上の生徒が流出しているというのは事実だろうというふうに考えております。
会長	数字で見ますと衝撃的ですが、他の地域へ通いやすいという地域性もあるのかもしれませんが。高校の問題は、菊池のみならず、上益城とか天草でも同じように直面しています。議題としての教育は、一旦ここで終わらせていただきますけれども、菊池で解決に向けた新しいモデルができたということのをこれからも一緒に議論していけたらと思います。

(議題)

(1) 熊本地震から考えるこれからのまちづくり

(企画振興課/園田賢太郎主事、防災交通課/米村雅司参事説明)

資料②-1…議題『熊本地震から考えるこれからのまちづくり』ワークショップについて

資料②-2…「熊本地震から考えるこれからのまちづくり」ワークショップシート

(概要)

熊本地震の経験から得た教訓や知見を持ち寄り、未来に向けてより安心で安全な菊池市を創るために必要なことを議論するワークショップを実施しました。委員に事前に記載していただいたワークショップシートをもとに、自助、共助の部分について、個人、家族、地域などの自分たちでできたこと、できなかったことについて、様々な観点から意見を出し合っていました。

会長	写真を見せていただきながら、菊池市内での被害の概要を説明していただきました。これからそれぞれのグループでご討議をいただこうと思います。まず、ワークショップをやり出すときには、心を許しておもいきりしゃべれるような雰囲気作りがとても重要です。10分くらい時間をとりたいと思いますので、自己紹介と併せて地震のとき、こんな驚いたことがあったとか、少し共感できるようなお話をしていただければと思います。
各班	ワークショップ (アイスブレイク)
会長	みなさん、そろそろ一巡したところでしょうか。これから少し本題について入っていきたいと思います。最初に事務局の方からご案内があって議論する手がかりになるようなことが書いてあったと思います。予め準備して幸い助かったとか、あるいは自分たち家族等でうまく乗り越えたこともあるでしょうし、近所の力、こういったものが非常に重要だったというご経験もあるでしょう。さらには72時間くらいは、なかなか公的支援も

第1回菊池市の未来を考える懇談会
平成28年7月11日

	届かない中で、自分たちで生き延びないといけないというのも現実です。その中でも何が一番困ったのかなど、様々なご経験、あるいは今振り返って今後こういうことを考えなくてはいけないなということについて話し合いができたと思います。約40分時間をとりたいと思います。進行については、ファシリテーターさんにお任せいたしますのでよろしくお願ひします。
各班	ワークショップ（自分たちでできたこと、できなかったこと）[40分間]
会長	みなさん話が盛り上がってきているかと思いますが、少しまとめに入っていただきたいと思います。ファシリテーターさんを中心に意見が整理されつつあると思いますので、これから15分、各班ごとに今日の話の要点等を整理してください。まとめが終わりましたら、話し合いの内容についてご発表いただきたいと思います。
各班	ワークショップ（まとめ・発表準備）[15分間]
会長	まだ作業中の班もあるかもしれませんが、全体の時間進行もありますので、ここからは各班の内容についてご紹介いただきたいと思います。
2班	個人でできたこととしては、余震があっておりましたので、すぐ脱出できるように窓際に寝ていたとか、家具が倒れないように突っ張り棒をしていたという意見がありました。それと地震後に防災メールを登録された方がいらっしやいまして、いろいろな情報が来るようになって役立ちましたということでした。家族や地域でできたことに関してですね、消防団の方がおられて地域ごとの特性に応じて住民を避難させたり、高齢者を迎えに行ったりできてよかったと言われていました。できなかったこととしては、菊池で地震があった後に電気があったところ、なかったところ、水があったところ、なかったところがあって、水があったところではなかったところに協力してあげたかったとか、反対になかったところでは、どこにあるか分からなかったという状況がありました。できた地域もあったそうですが、何があって、何がほしいという情報を例えば、総合支所で把握、情報交換する等の調整をできればしてもらえないだろうかという意見も出ておりました。他にも、防災グッズ、非常食の準備ができていなかった。いろんな情報が錯綜して判断するのに手間取った。地震でびっくりして外に出たものの、どこに行くべきか戸惑ったそうです。避難所は近所にあるけど、その避難所では心配と、やはりどうしても地震だったので、電柱や木があるとそういう近くにいたくないということで、最終的に大きなグラウンドがある遠いところまで避難することになったそうです。それと、面白かったのが、避難所にいて、どうしても家に帰れないという地域があって、そこは今では婦人会という組織はないですけども、近所の女性たちが自

	<p>然と集まってきて、ご飯や味噌汁、おかずを炊き出しされたそうです。やはり昔みたいに婦人会のような組織が残っていれば、中心から配布するのではなくて、各地域で食事を準備するようなことができるというような話が出ておりました。</p>
3班	<p>まず、個人としてできた部分としては、電話はつながりませんでしたけど、フェイスブック、ライン等通信の手段を使って連絡のやりとりができたことです。備えていてよかったこととしては連絡網があります。例えば、会社であれば会社の連絡網を使って従業員と連絡をとることができました。防災マニュアルをつくっていたこともあげられます。それから飲用水を以前から予備で自宅に備えていたこともあげておられました。家族や地域でできたこととしては、近所の方との助け合いでブルーシート等を分け合ったり、家族で安全な部屋へ一緒に避難をし、身を守ったというような話がありました。団体では、青年会議所や観光協会、それから消防団の活動等が地域の安心感につながっていたように思います。地域の中では、朝市や、余っているものをお配りするとか、地域の方に還元するという活動を行っておられたという話もありました。それから、震災の影響でなかなか地域内でも売り場を確保できてない状況がありましたが、売り場を早めに用意することによって、地域の生産者の方が売ることができるということもありました。できなかったこととしては、子どもたちへの対応があります。やはり今回の地震によってかなり不安を抱いている子どももいます。今でも一人でいられないということもありました。そういった子どもたちを預ける場所がなかったような点が今回の地震によって浮き彫りになったと思います。高齢者に関しましても、安心メール等はもちろん発信されておりましたが、高齢者の方は、なかなかこういったメール等を使われない方もおられますので情報というのが、なかなか伝えられなかったのではないかと思います。情報の部分で言えば、例えば変な情報もたくさんフェイスブックやライン等に出ていましたし、そのことで地域が混乱するようなことは何とか防ぐことができなかつたかなという気もしております。それから企業としての対応ですが、地震保険に入っていなかった企業がたくさんあるというふうに聞いております。そういった未然の対応ができることに関しては、企業として対応する必要もあると思います。また、充電の設備が壊れたり、それによって火災が発生するという恐れもありますので、企業としてできることは事前しておく必要があると思いました。やはり家族が一番であると思います。家族のために安全な場所を設けたり、応急処置をやっていくということが一番大切だと思います。それから地域のことや企業のことを考えることが必要であるというふうに思います。</p>

4 班	<p>菊池市の中でも、被害が大きかったところと、そうでなかったところの地域性がはっきり分かれたことが分かりました。まず、できたこととして、地震が来る前から家具の固定をしてあったとか、東日本大震災を受けて、食料の買い置きを少ししていたことがありました。例えば、水の備蓄は、普段から水を別のところから汲んで使っており、平時で使っていた分がそのまま備蓄として使えたそうです。あとはご自宅で高齢のお母様の介護をされているということで、普段からみなさんそういう意識があって、地震のときにもすぐお母様をどうされるかということ家族で話し合うことができたそうです。それに対して、逆になるかもしれませんが、個人としてできなかったことは、事前準備です。あれだけ大きな地震が来るとは思っていなかったもので、やはり準備ができていない。家具の固定や備蓄もできていないところもあったようです。また、例えば自分のお部屋の入り口のところに倒れやすい家具があり、地震後に「出てこれるか」と聞いたら「出てこれない、倒れている」という話や、非難経路となる普段の出口のところに倒れやすい家具があったという話もありました。水の話では、水を持っていくポリ缶が手に入らないという現状で出ており、できなかったことです。また、前日に地震があったので、もう起きないと思い込んでいたということも、個人でできなかったこととしてあがっていました。地域と家族でできたことでは、家族の中で誰が何をするか役割分担ができていたことがありました。また、近所とのコミュニケーションが普段からとれており、自分の家の安否確認後、隣の家や、近所の高齢夫婦の世帯安否確認に行き、近隣の人とともに避難ができた。あとは、携帯をみなさんお持ちだと思えますけれど、電話が通じなくてもメールでのやりとりができたので、離れた人との安否確認もできたとかですね。それと前震を受け用心のため家族みんなで寝ていたことで、みんなですぐ避難できたという話もありました。それから、避難所でみんなおなががすいている状況の中で、子供たちが率先して「僕はひとつでいいです」とか「これくらいでいいです」と言ったというような話もありました。これはできたことというよりも素晴らしいことだったのではないかという話があってありました。また、地震が起きてすぐ、消防団がグラウンドの照明を準備してくれるなど献身的な動きで、安心して逃げられる場所を準備してくれたという話もありました。さらに、旭志の方だったと思うのですが、道路にブロックが倒れており、それが通行の妨げになっている状況で、誰が言う必要もなく、子供たちも一緒になって片付けを行ったそうです。これはやはり強制的なものではなくて、助け合いの気持ちを正に教育という中でできたのではないだろうかと思います。これはできたことの中でも本当に素晴らしい</p>
-----	---

	<p>ことだったと思います。今度はできなかったことですね。地域として気づいたことは、飲料水だけではなくて、生活用水が非常に重要なものであるということです。例えばトイレもそうですし、お風呂や洗濯もそうです。生活用水の必要性に対する意識も非常に少なかったところではなかったろうかと思います。あとは自主防災組織がある地域や日ごろから避難訓練を行っている地域もありますが、地域によっては意識的に低いところもあり、この流れができていなかったというような話もありました。避難所の中でも配膳やちょっとした掃除等の軽作業は、避難されている皆さんで自主的にやることができたのではないかという話も出ていました。そうすることで、もう少し快適に健全に避難所で過ごすことが出来たのではないかと思います。あと、デマの情報等、情報の正しい把握ができていなかったという点です。情報がいっぱいあるからこそ、かえって混乱してしまうこともあったのではないかと思います。例えば、情報の受け手として市役所にはさまざまな情報が集まりますが、情報の出し手である私たちが何課に連絡するとか、何課に行ったほうがいいのかと少し意識するだけで、情報をきちっと分けることもできたのではなかろうかと思います。</p>
1班	<p>熊本では、地震自体が久しぶりということもあって、地震保険への加入状況も少ないということがひとつ反省点ではなかったろうかという話が出ておりました。あとは、できたこと、できなかったこと両方になるかと思いますが、地震があったときに家の安全なところ、あるいは地域の中の安全なところにすぐに移動することができた人はやはり意識が高い部分があるし、逆に区長さんたちが「早めに避難しなっせよ」と言っても「大丈夫」と言いながら出てこられなかったというお話も出まして、意識の高さ低さというのが、個人や家族の間で差があったというように思います。あとは、前震のときにはできなかったけれども、本震、あるいは余震のときまでには、家具の固定や防災用品、生活必需品の準備ができたという話もありました。あとは、今回の地震を機に家族の中で、「あなたがこれしなっせ」、「私がこれをします」というようなルールづくり、役割分担をはっきりさせることができたということもありました。最後ですが、この班の一番重要なまとめとして、市役所で防災マップとか便利帳をつくってはいるけれども、それだけではなく隣近所との普段からのやりとりやコミュニケーションが今薄くなっているという状況があり、地域の中で安全なところをなかなか共有できていなかったり、避難するために隣近所に声をかけをすることができなかったとか、避難所の自主運営がなかなか難しかったり、自主防災組織ができたばかりで、今回なかなかうまくいかなかったということが、できなかったことであり、できるようにならなければいけない</p>

第1回菊池市の未来を考える懇談会
平成28年7月11日

	<p>と思います。そのためにはやはり地域のコミュニティ力というのが重要ではないかというふうに思います。</p>
会長	<p>各班に話し合いの概要についてご報告していただきました。これから会長としての、お話を伺った簡単なコメントと市長の方からコメントをいただきたいと思います。私自身熊本市に住んでいるのですが、揺れが大きくて怖い思いをしました。私が住んでいる地域と比べますと、菊池市は非常に地域のつながりがまだ強いんだと驚きながら伺っていました。もちろんそれぞれの地域で少しずつ差があったり、課題もありますが、非常に地域力の強さという意味では菊池市は優位性を持っていると思いました。また、避難された方や支援をされる市役所の方々のご苦労、さまざまな反省点、あるいは、工夫がこれから出てくると思います。今日の皆さん方のお話を伺っていて少しほっとしたのは、市役所への非難合戦になりはしないかと少し不安に思っておりましたが、一言もそんな話が出ずに、行政、もちろん民間の立場で公的な活躍をしていらっしゃる消防団、あるいは商工関係の団体の方等それぞれが持っている知恵と工夫、ネットワークを活かしてさまざまな取り組みをされたことが、今日とても素晴らしいなと思いました。ある班の話では、民間の企業と観光協会、その他で協力し、被災状態が長くなって学校が閉まっている間に子どもさんをお預かりして、親御さん方に少し休んでもらったり、あるいは片付けに専念できる機会をつくったり、それぞれの班にいろいろな工夫が今日は語られたんだと思います。きれいにまとめてしまうと、地域の協働力だとか備えだとかいう話になるのですが、おそらく今日お話いただいた具体的な物語、ストーリーにとっても意味があると思いました。こういうものをグループで共有しましたが、市役所の方も入っていただいていますので、さらに地域の力につなげていただけたらと思います。</p>
市長	<p>どうもみなさん長時間にわたってお疲れ様でした。4つの班くまなく見せていただいたのですが、大変議論が活発だと感じました。時々、私自身もはっとするようないい気付きも出ていまして、大変いい会だったと思います。今日みなさんがお話されたことの99%は、実はソフトの話なんですね。大変よかったと思います。つまりハードはある意味では、自治体がかなり負うところがございます。道路、災害に強い庁舎等々ですね、でも一番大事なものは、ひとたび何か起きたときにまず身の安全を守るとか、お互い力を合わせて助け合うといったソフトのところなんですね。これが今日の会話の大半であったというのは、みなさんの意識の高さを感じました。それで今日出てきたことを総括すると、備えの大切さ。これは起きてみて分かることですから、普段はなかなか難しいと、でも、例えば棚を動</p>

かないようにしようとか、そういうことは今でもすぐできることですよね。この備えの大切さを痛感されたということと、それから初動動作の大事さを痛感されたと、とりわけ自助共助ということの大切さは共通の思いであったということです。それから3番目にその中で女性の力というものが非常に大事であったという指摘もあって、私はその通りだと思いました。それから気を使っていたつもりでしたけれども、お年寄りや子ども等、弱い人に対する今いっそうの手立てももっと考えていかなければいけないかなというふうに思いました。それから、普段の付き合いの大切さとか、自主防災組織にしてもそうですが、こうした隣近所への関与、関心も非常に大事だという気づきもあったようで嬉しく思いました。今の話しも踏まえて今度は私が何を感じたか、私は総責任を負う立場ですからちょっと見方は違うかもしれませんが、基本は同じことでした。まず私なりに思ったのは、こういうときに一番大事なのは情報だと思いました。暗闇だったことありますが、何がどこで起きているかが本当に分からないんですよ。みなさんはみなさんで一生懸命、その時、その瞬間を守りぬくので一生懸命です。それが地区だけでも200あるわけですよ。実際には数百に分かれてみなさん、車で寄って来たりしているわけです。それがなかなか伝わってこないんですよ。それが見えないとですね、例えばいろんな物資をどこで誰が何を欲しているかということが分からないですね。そうすると優先順位がなかなかつけにくいとかですね。でも、決めなきゃいけないので、最初のうちは大変混乱いたしました。この情報というのが非常に重要だということと、それからさっき言いました自助共助、言葉ではこう言いますが、自助共助なしにはこの防災というのは無理だということを私は心から実感しました。こういうことは夜起こりやすいですから、真っ暗闇ですよ。しかも、今回、停電もありました。場合によっては大雨と重なっていた可能性もあったわけです。そういうワーストケースを考えると、その瞬間まず身の安全を守ってくださいという我々の声は届かないわけですよ。そうするとみんな「おばちゃん大丈夫ね。こっちはおいで」とかですね。あそこの広場に行こうとか、いろんな声かけをしながら身を守るしかないわけです。そのことの重要性を実感しました。今回、菊池は比較的小規模と言いながらも、冒頭申し上げましたように被害は大きかったわけですよ。ただ、死者がなかったのがよかったんですよ。これで死者が一人、お二人といたら本当に被災地の一つとして、もっとマイナスの意味で取り上げられていたでしょうね。そういう意味では本当に不幸中の幸いであったというふうに思います。それから私が感じたのはネットワークの重要性。さっきの言葉で言えば近所付き合いです。いろんな物

資が送られてきてまして、お助けの力が相当ありました。なんでここから来るんだろうと思ったら、なんとか協議会のメンバーの市町村だったりですね。それから菊池一族の絡みで、普段必ずしもお付き合いのないところからも物資を自発的に送っていただいて、大変助かりました。そういうネットワークの大切さというのを大変感じました。それから私が今一番感じていることは、「ピンチをチャンスに」ということです。大きなチャンスが来ているというふうに思うんですね。ひとつには今言った足元を見直して、より強い防災の仕組みをつくるという意味では、みんなが体験しているわけですから、鉄を熱いうちに打っておけばですね、これは強固なものができてくると思います。もうひとつ次のことを考えたときですね、つまり、瓦礫を片付けるのは復旧でして、ここから新しい芽が生えてくるわけではないですね。そこに新たな経済活性化の芽を打ち込んでいかなければならない。そのときに現実だけ見ると、溪谷がやられていて、頭しょんぼりうなだれてしまいますが、私はこれをチャンスに活かそうと思いました。ですから先日、菊池溪谷が新聞に載りましたけれど、あれはまだ入れないんです。しかし、バスを1台用意して、メディアを呼んで、わざわざ連れて行ったんですよ。それで一回一番どん底のところを発信してもらおう。そうすると東京なんかでもやはり反応がありまして、「あれは市長のところじゃないの。」という反応が返ってくるんですね。そこから大事なのは、復旧の過程をこれからどんどん定期的にまた発信をしていきます。そうすることで共感とか関心が増えて、将来の潜在的なファンも増えてくると思います。今、復興コンサートというのが私の知る限り東京で3つくらい自発的に生まれています。そういったものが寄付金も含めた支援の波に続いていくと思います。また、今ボランティアセンターを菊池に立ち上げました。これは、菊池市自身が被災地ですから、職員を他の市町村に振り向ける余裕はないわけですね。しかし、たまたま私たちの友好都市の遠野市が、後方支援基地として活躍をして、そのノウハウをいっぱい持っているわけです。それで、恩返しをしたいというので今菊池に来てくれています。では、菊池市は場所は提供できるということで、市役所からの施設提供、遠野市からのコーチング、運営のノウハウ提供ということで、今全国からボランティアを呼んで、ここからボランティアを毎日送り出しています。それで今定期的にバスで被災地の子どもたちとお母さんたちを呼んで、七城のプールで遊ばせて、温泉に入らせて、バーベキューをやって、ストレスを発散させてまた帰ってもらう。こうすることで被災地の方と菊池市との絆がものすごく深まるんですね。言わばファンが増えていく。それから、全国からボランティアが来

第1回菊池市の未来を考える懇談会
平成28年7月11日

	<p>ますから、こういう人たちとも絆が増えて将来のファンにつながっていくということで、菊池の将来というものに全部拡大的につながっていくわけですね。ですから、今私どもは純粋に同じ熊本県民として、あの惨状を見て、何とかしてあげたいと純粋な気持ちでやっているわけですが、よく「なさは人の為ならず」という格言がありますけれども、一生懸命人のためにやっておけばですね、菊池ファンという形で、必ず私たちにもいろんなものが巡ってくるということを信じてやっております。今日はそういう意味では、会長が心配されたようなですね、行政対なんとかということではなくて、みんな同じ方向を向いて議論しましたよね。それはどの方向かということと未来です。これは今後こういうことがないようにこうしようということも踏まえての、おもいきり言いつばなしの会、つまり懇談会になったんですね。そういう意味では菊池市の未来を考える懇談会の今年度の第1回目として、非常に活気あるいい議論ができたなというふうに今日は思いました。みなさまのおかげです本当に今日は長時間にわたってありがとうございました。</p>
会長	<p>市長から総括をいただきました。まだ、3ヶ月足らずで、多分、心はまだハイなんですよね。でも、これから数年かけて社会を元に戻し、さらに危機をチャンスにしていこうという話は、非常に長い時間がかかります。こういうまだ新鮮な記憶が残っている間に一度その経験を言葉にして共有しておくというのはとても大事な機会かなと思いました。事務局のほうからお願いします。</p>
事務局	<p>会長におかれましては、長時間にわたる議事進行ありがとうございました。また、委員の皆様におかれましては、お忙しい中ご出席いただき、また、長時間にわたって、ディスカッションいただきまして、本当にありがとうございました。これをもちまして平成28年度第1回菊池市の未来を考える懇談会を終了させていただきます。ご起立ください。お疲れ様でした。</p>